

大型基準導入が一段落する好機に検討を IFRS適用企業の 管理会計対応

Part 1 単体の経営管理をどう行うか
IFRSが管理会計に与えるインパクト

Part 2 みえるようになる情報とみえなくなる情報
IFRS特有の情報と経営管理への活用

Part 3 “高度化”や“統一”ではなく「目的」が重要
IFRS適用を機に考えるグループ経営管理の再構築

山本 浩二(有限責任 あずさ監査法人 公認会計士)

2018年11月末時点で、IFRS適用企業・適用決定企業が200社に迫るなど、IFRS適用企業は増加している。IFRS導入にあたって、制度会計と管理会計を同時に対応するのが理想だが、制度対応を先行するケースもあり、その場合は、IFRS適用後に管理会計への対応を行う必要がある。

IFRS15号「顧客との契約から生じる収益」やIFRS16号「リース」といった大型基準の導入が一段落するタイミングで、先延ばししていた管理会計への対応ならびにグループ経営管理の見直しや構築を行う場合の留意点を解説してもらった。すでに適用している企業はもちろん、今後の導入を検討している企業にも実務の参考にいただければ幸いである。